



香川大学の学生に、  
2つのお願いが  
あるんです

香川大学、新時代。

# 長尾 省吾 × 浜田 恵造

香川県知事

香川大学長

はまだ けいぞう

ながお せいご

香川大学は、  
どのような  
地域貢献を  
していけば  
いいでしょうか



浜田 インターネットでの情報発信は、若い人のセンスやアイデアが重要ですね。是非、様々な提案をしてください。もうひとつは、2013年の瀬戸内国際芸術祭です。前回もボランティアガイドである「こえひ隊」として、多くの学生に活躍していただきましたが、さらに踏み込んだ形で携わってもらえるとうれしいです。

食と言葉は、昨年「うどん県 それだけじゃない香川県」というキャッチコピーの宣伝映像が好評でした。こういった観光プロモーションに学生が関わられることはありますか。

長尾 希少糖に関しては食べても血糖値の上

がらないもの、脳の損傷に効果のあるものなどの研究が進んでいます。本格的に市場に出るにはまだまだ時間がかかるかもしれませんが、希少糖はさらに大きな可能性を含んでいます。希少糖に関する情報は、香川大学のウェブサイトや、香川大学のパンフレットなどで提供しています。希少糖に関する情報は、香川大学のウェブサイトや、香川大学のパンフレットなどで提供しています。

浜田 農業試験場や産業技術センターと連携

した、品種改良・食品加工技術や機能性の研究は引き続きお願いしたいところです。また香川大学には、長年取り組んでいます。また香川大学には、長年取り組んでいます。また香川大学には、長年取り組んでいます。

浜田 地域や診療科目での医師・看護師の

偏在問題、医療機関の連携強化、がん対策、ありがたいことに受療率日本一の糖尿病の対策など、香川ではお聞かせください。

長尾 工学部には危機管理研究センターが

あり、香川独自の災害対策を研究しています。危機管理専門家の輩出も大学の努めであると震災以降強く感じています。センターを核に、専門家としての人材育成にも取り組んでいきたいと考えています。継続的な育成は、県内の様々な分野に危機管理専門家を配することに繋がります。

浜田 昨年は先生方に、新しい県立中央病院

の防災対策について専門家としてのご意見をいただき、県として取りまとめを行いました。現在は地震・津波の被害想定や、災害時の情報収集伝達についても研究を進めております。そのためにも委員会や検討会にも、香川大学の先生方にご参加いただき、調査研究でお力添えをいただいております。

長尾 優れた人材を育成し、価値ある研究を行う場として、さらに地域に貢献できる大学を目指します。

長尾 インターネットでの情報発信は、若い人のセンスやアイデアが重要ですね。是非、様々な提案をしてください。もうひとつは、2013年の瀬戸内国際芸術祭です。前回もボランティアガイドである「こえひ隊」として、多くの学生に活躍していただきましたが、さらに踏み込んだ形で携わってもらえるとうれしいです。

食と言葉は、昨年「うどん県 それだけじゃない香川県」というキャッチコピーの宣伝映像が好評でした。こういった観光プロモーションに学生が関わられることはありますか。

浜田 香川大学には県内のリーダーとなる

人材を育てていただきたい。学生にもその気持ちを持ってほしいですね。将来を担う学生に、私から2つお願いしたいことがあります。これからは香川の企業も海外展開が必要になります。そのための国際的な視野を持つてほしいということ。今、日本全体で若者が内向きになっていると言われますが、新しいものに興味を持ちチャレンジするということも、海外に目を向けてほしいですね。また、学生時代から地域とのつながりを強めてほしいと思います。県や市町の住民という意識を持ち、少しでも関わりつつ大学生活を送ると、社会に出てからも地域社会の見え方が違ってくるはずですよ。

長尾 次回は、大学をあげて参加する予定

です。今、各学部や学生のキーパーソンに声をかけ、どのような形で参加するのがよいか、組織や運営について話し合っているところです。

知事は、香川大学の学生には、何を望み、どんな大学生活を送って欲しいか、と考えています。

香川大学には県内のリーダーとなる人材を育てていただきたい。学生にもその気持ちを持ってほしいですね。将来を担う学生に、私から2つお願いしたいことがあります。これからは香川の企業も海外展開が必要になります。そのための国際的な視野を持つてほしいということ。今、日本全体で若者が内向きになっていると言われますが、新しいものに興味を持ちチャレンジするということも、海外に目を向けてほしいですね。また、学生時代から地域とのつながりを強めてほしいと思います。県や市町の住民という意識を持ち、少しでも関わりつつ大学生活を送ると、社会に出てからも地域社会の見え方が違ってくるはずですよ。

長尾 医学部附属病院の院長時代から、特に

「地元」に定着する「医療人」を輩出したいと考えていました。新医師臨床研修制度の施行で多くの新人医師が附属病院外に出て行く中、香川県にも協力いただきハードソフトを整備した結果、定員の90%以上の研修医を確保。これは中四国でトップクラスです。地元に残る医師が不足している地域や診療科目の解消にも役立つのではないかと考えています。介護については、初年次学生の介護現場での研修を検討しています。今、急速に、介護専門家のニーズが高まっています。若い時に現場に出た経験がモチベーションとなって、介護の重要性を理解する学生が増えて欲しいと思います。香川県全体を大学のキャンパスに見立て、将来の道を決める力や、社会に出てからの成長の糧となる経験の場を、大学ができる限り与えることは非常に大切だと思っています。



清水支店長提唱の  
「香川モデル」に  
大学として  
貢献できることは？



香川大学長

# 長尾省吾 × 清水季子

日本銀行 高松支店長

しみずときこ

ながお せいご

香川大学、新時代。

香川には素晴らしい素材が  
たくさんあります  
大学からも光を当てて  
いただきたいと思います

長尾 学長の就任後すぐ、香川大学は「香川大学構想会議」を設立しました。これはどのような会議なのでしょう。

長尾 今の大学の情報を、強みはもちろん、改善すべき事柄のデータもすべて明らかにして、目指す方向を探る場です。内部の人間だけでなく、学外有識者も委員に迎え、ご意見をいただいています。

清水 私も参加させていただき、議論がとてもオープンなのに驚きました。大学についての専門家でなくても遠慮なく発言できる雰囲気ですね。参加者が各々の立場から意見を出し合い、大学の新しい未来を作ろうとしています。

長尾 学外に対しオープンになると同様に、学内では学部間の垣根をなくしたいと思っています。6学部が、先生も学生も気軽に交流を図れる、一体感を作りたいと考えています。

清水 香川大学の特別講義で、清水支店長から「香川モデル」の提唱があったと伺いました。「香川モデル」とは、どういったものでしょうか。

長尾 地域が自律的に成長できる仕組み作りが重要となっており、全国に先駆けたモデルとして「香川モデル」の話を授業や講演などでさせていただいています。香川の成長分野として「農林水産業」、「医療介護」、観光も含めた「海」、をあげています。それぞれに香川には恵まれた素材があり、4つ目としてあげ

たいのが「人」。赴任後500人近い経営者とお話ししましたが、本当に素晴らしい方が多いと感じています。

長尾 成長素材の調査や研究開発には香川大学が関わっているものも多く、ひとつひとつ研究を積み重ねて、産業化につなげたいと思っています。

清水 全国で初めて構築した全県での医療ネットワーク「K-MIX」、これらは香川大学が中心となり、高い評価を受けていますね。

長尾 被災した岩手県で、K-MIXを導入する動きがあります。タイのチェンマイでも在住日本人の健康管理にK-MIXを用い、日本から健康管理にK-MIXをシオンをしています。香川で生まれたシステムが、全国、また世界に広がっているのは嬉しいですね。

清水 世界ということでは、清水支店長はロンドンから高松に赴任して来られて、高松をどのように感じられましたか。食べるものもいいし、景色が美しい。お会いする人がすばらしい。成長素材は、私自身が日々感じている香川のよさでもあります。ですが、多くの方がそのすばらしさをあまり意識されていないのでは、と感じることもあります。今

長尾 今まさに、そのような場作りをしています。例えば、県の東西に大学のサテライトオフィスを作り、教員と学生が定期的に講演や研究成果を発表し、地域の方との顔の見える交流の場としたいですね。計画をお話すると、とにかくみなさん、熱く歓迎してくださいました。県民に求められていると実感し、大変やりがいがあります。早く実現して、皆さんに、香川大学に親しみを持っていただきたいです。



聞き手  
西日本放送アナウンサー  
宮宇地 美穂

香川大学のサテライトオフィスが、地域に新しい風を吹き込みそうです。

長尾 中立的な立場としての「要」の役割です。大学が蓄積している知的ノウハウや、学生の若い力を、地域で上手く使ってもらいたいですね。持っているものを、こちらから示すことも必要だと思います。

清水 今後、香川大学という旗印のもとで、そこに行くに相談に乗ってもらえる、学生もプライドを持って地域づくりに関わるという、わかりやすい場があるといいですね。

長尾 地域でも企業でも、若者が「ここを支え発展させたい」という意志を見せると、必ずまわりも奮起して大きな活力が生まれます。そんな役割になりたいと思います。またキャンパスから飛び出すことは、学生にとっても新しい経験です。地域を学びの場と捉え、人間的な豊かさや温かみなども含めて、成長してほしい。土地や人から学べば、愛着も深くなります。お話を伺い使命が浮き彫りになりました。さらに改革に励みたいと思います。